



愛郷無限

土屋館 どやだて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2013年11月28日号 NO.433

写真提供：大崎市

Subject：びおら（大崎市子ども・若者総合相談センター）

元の中通児童館では、何らかの事情で学校や職場に通えなくなった子供達・青年達を受け入れる大崎市子ども・若者総合相談センター（びおら）が活動しています。今の世で不登校の児童や引きこもりの若者と呼ばれる子達が通っています。元市会議員の杉沢さんや鈴木明美先生が中心となって大仙ワーキングハウス協議会として立ち上げ・運営していますが、訪ねて見るととても多くの子供達・青年達が通い、各々に勉強をしています。

昨年、その中の一人の青年を土屋館衆に誘い、土屋館わいわい広場の運営や、花火ウィークの運営を手伝ってもらい、さらには大曲納豆汁のPR遠征にも一緒に連れて行きました。近い世代でお馴染みさんができると、一年程でみるみる明るくなり冗談を言い合える仲間になりました。その後、無事に就職して頑張っており、今では自動車免許を取るべく教習所にも通っています。今でも仕事の合間に土屋館を手伝いに来てくれたり、メンバーとメールのやり取りを続けています。

我々はこの種の教育に関しては専門知識が全くありません。お節介なだけなのでしょう。ただ当たり前前に接して、イベントで一緒に汗するのみ。こんな接し方が本当に正しいかどうかは分かりませんが、センター（びおら）で日々彼らの面倒見を頑張っている方々へのちょこっとお手伝いになればと思っています。

ちょっと風変わりな子もおりますが、本当に繊細で、優しく、そして素直な子達です。昔は「ちょっと変わっているな、大人しすぎるな、でもしょうがないね～面倒見ろよ」で片ついたものが、今は〇〇〇症候群とか病名が付いて何らかのカテゴリーに分類されてしまう。ポジティブな言動が優先される現代において、繊細さ、優しさ、ネガティブさ、悲しさは悪だと捉えられることが往々にしてあります。でも繊細さや優しさは人間の持つ優れた性分の一方向であり、決して悪いことではないはず。様々な要因はあるにせよ、彼らが生きにくい世の中とは普通の人にとっても決して住み良い世の中とは言えないのではないのでしょうか。金子みすゞさんの詩の通り「みんな違って、みんな良い」です。11月23日、カモースリング大曲の運営を4人の青年が手伝ってくれました。皆とても繊細で優しい子達です。土屋館ブースでおにぎり・菓子販売、焼き鳥の手伝い、青木さんの女川海産物のお手伝いを最後まで全員で頑張ってくれました。売れ残った品を「意地でも売ってきます！」と会場内を行商もして歩いてくれました。

街中の私たちにできるお手伝いはこの程度のことですが、それでも続けたいと思います。だからスタッフ、来場者、ご近所みなさん、会場スタッフにちょっと繊細な大人しい子が居るときは温かく見守って、声をかけてあげてください。

過保護にする気はまったくありません。ただただ皆で普通に接していきましょう。

これからも土屋館わいわい広場を手伝ってもらいます。土屋館は地域のお馴染みさんを作る場所だから。皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い致します。